



Q：そもそもなぜファンドと組もうとお考えになったのですか？

創業者の父が会長職に退き、私が社長に就任した当時は、会社の経営は上野家で担うという執着がありました。同時に、働く人が幸せであることが大切であり、それに見合う成長はしていきたいと思っていました。「うまい鮎勘」が軌道に乗り、「ゆとりぎ」や「まるくに」、「銀座鮎正」など多店舗を展開して企業価値がどんどん上がる中で、事業承継について具体的に考えなければならない段階となり、ファンドへの売却を決めました。

Q：他のファンドからも打診があった中で、なぜアントを選ばれたのでしょうか？

アントの方々のプレゼンは他のファンドとは違って実践的で、アミノの事業をちゃんと見ているのが伝わりました。具体的には、(回転店舗の)「ゆとりぎ」の業態を高く評価していただいていた、「これを展開するのに協力したい」、という熱のこもった提案に感じ入りました。

Q：アントのメンバーと実際に働いてみていかがでしたか？

アントの方々は数字にも強いし、厨房に入って手伝いもする。現場から上がってきたトラブル、課題には必ず答えを出します。そういった姿勢は信頼感につながります。法的なトラブルにも強いし、コンプライアンスにも強い。ホワイト企業を目指していた私にとって、非常に頼もしかった存在ですし、実際に会社の風土もより良く改善されていきました。人から相談されたら「私の経験からするとアントはお勧めだ」とはっきり言えます。



Q：事業会社の傘下に入りました。今後の抱負について教えてください。

2024年7月に和食ファミリーレストランの「和食さと」などを展開するSRSホールディングスの傘下となりました。グループ内には同じ寿司業態で、関西圏で大きな知名度のある「にぎり長次郎」があります。アミノは東北発祥ですが、今後は栃木、群馬など北関東への出店を加速し、「西の長次郎、東の鮎勘」と言われるようにしていきたい。「和食さと」などグループ内の別ブランドとの共同出店も模索していきたいと考えています。